

3

田中さんは、「水を大切に使う」ことについて調べたことをほう告する文章の下書きを書いて、友達の山口さんに読んでもらいました。次は、田中さんが書いた下書きの一部です。これを読んであとの問いに答えましょう。

## 水を大切に使う！

人間が生きていくためには、水は必要<sup>1</sup>である。四年生の社会科で、水不足になりこまった県や市が、水を大切に使うために、いろいろなくふうをしたことを学んだ。<sup>2</sup>わたしたちの小学校でも、水を大切に使うための取り組みをしている。水を大切に使うための取り組みとして、水道のじゃ口をこまめにしめている。例えば、給食を食べた後、歯をみがく時には、じゃ口をこまめにしめるようにしている。

A

四月にくらべると、学校の中でも、水を大切に使う人の数がふえてきたことが、上のAのグラフを見ても分かる。水を大切に使うことは、かぎりある水を使い続けるために大切なことである。<sup>3</sup>小さなことでも、こつこつ続けると大きなものになる。そのためにも、このような取り組みを、もっと学校の中で、<sup>4</sup>広めていきたいです。

わたしの友達の小川さんは、手をあらう時もこまめにじゃ口をしめるようにしている。  
「石けんをつけて手をあらう時は、必ず水を止めています。」

と話していた。

く下書きが続くく

一 線部1必の書き順についての問題です。(例)のように「必」の↓で示している部分は何画目になるかを書きましよう。



二 田中さんはAの部分に、グラフをのせようと考えています。ここにのせるグラフとしてふさわしいものを、次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましよう。

- 1 花に水を毎日やった人の月別の数
- 2 じゃ口をこまめにしめた人の月別の数
- 3 手をあらった人の月別の数
- 4 歯をみがいた人の月別の数

三 友達の山口さんは文章を読んで、二文を一文にした方がよいところを見つけました(線部2)。次のアとイの二文を五十字以内(「、」や「。」も一字として数えます。)の一文にまとめましよう。

- ア わたしたちの小学校でも、水を大切に使うための取り組みをしている。
- イ 水を大切に使うための取り組みとして、水道のじゃ口をこまめにしめている。

四 — 線部3のことをたとえたことわざとしてふさわしいものを次の1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

- 1 ねこに小判こばん
- 2 ちりも積もれば山となる
- 3 急がば回れ
- 4 かつぱの川流れ

五 田中さんは、下書きを読み直しました。すると、— 線部4は、他の文とくらべると、書き直したほうがよいことに気付きました。どのように書き直せばよいですか。七字で書きましょう。(答えは、かい答用紙に書きましよう。)


六 山口さんは田中さんの下書きを読んで、水を大切に使う他の方法を考えました。それは、そうじの時間にバケツに水をためてぞうきんをあらう方法です。これを全校のみんなによびかけたいと思います。そのよびかけの文章を、次の〈へじょうけん〉に合わせて書きましょう。

〈へじょうけん〉

- ・一文目は、「〇〇しましょう。」や「〇〇しませんか。」などのよびかける文とする。
- ・二文目には、「バケツに水をためてぞうきんをあらう方法」のよさを入れる。